

2007年7月20日

はるひ野住民のみなさま

はるひ野町内会エコプラザ対策部会

プラスチックと化学物質に関するシンポジウムのご案内

多摩市が計画している多摩市立資源化センター（エコプラザ多摩）における廃プラスチックの圧縮中間処理に関して、はるひ野住民を対象とした説明会が4月14日に麻生市民館で開催されました。ですが、2月の説明会と同じように安全性について十分な説明はありませんでした。対策部会では、より広い範囲の多くの対象者に向けて、より詳しい説明を行なうよう求めてきましたが、多摩市は今後、大掛かりな説明会は開催しない意向を示しています。

しかし多摩市は説明会ではなく、化学物質のリスクに関するシンポジウムの開催を計画しています。その内容は当初、テーマとして「プラスチック」という言葉すらなく、化学物質のリスクに関する一般論として「リスクを冷静・客観的に理解して、受け止めましょう」という多摩市にとって都合のよい一方的なメッセージを発するという意味合いが濃いものでした。

多摩市のこの企画を無視して、意見の往還ができる説明会を求めていくことも検討しましたが、「近隣住民に話しあう意志がない」とか「説明責任を果たした」と一方的に喧伝される恐れがあるため、対策部会では、パネルディスカッションの論点として「プラスチックと化学物質」を副題として明記することと、パネリストとして廃プラスチック圧縮に否定的な考えを持つ東京大学大学院の影本浩教授と柳沢幸雄教授の二人を招聘することを多摩市に要望し、認めさせました。

今回のシンポジウムは、廃プラスチックを圧縮処理する際に発生する化学物質のリスクに関して、専門家の意見や議論を聞く、貴重な機会です。ご興味のある方は、別紙の多摩市が作成したパンフレットをご覧ください、ご参加ください。

影本 浩教授……東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系環境システム学専攻教授。プラスチックを圧縮した際に発生する化学物質の種類を調べる実験を行ない、既知の有害な化学物質や未知の化学物質が発生することを発見された。廃プラ圧縮に関しては「危険性が未解明であるなら、時間をかけて調べるべき」との考えをお持ちです。

柳沢幸雄教授……東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系環境システム学専攻教授。化学物質過敏症やシックハウス症候群に関する専門家。大阪府寝屋川市に建設が計画されている廃プラ圧縮施設の安全性について調査する「北河内4市リサイクル施設組合専門委員会」に参加。同委員会報告書に、建設計画に反対する意見書を提出。施設の立地や排気の浄化方法に関してあらためて検討するよう求めています。



参加されるみなさまへ

対策部会はやまばとホールに **13:00 に集合** します。先着順受付ですし、入場に関して対策部会が便宜を図る催しではありませんが、ご質問等ある方は、部会メンバーに声をかけてください。

また、多摩市のチランには永山駅から徒歩10分とありますが、時季を考えると15分ほどかかると考えられます。バスの利用も可能ですが、時間には余裕をもってお出かけください。エコプラザ多摩に対するはるひ野町民の関心の高さを多摩市に見せつけましょう！